

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800030		
法人名	有限会社 竹松		
事業所名	グループホーム 楽園		
所在地	〒811-0323 福岡県福岡市東区志賀島1735番地の153 TEL 092-603-1233		
自己評価作成日	平成30年10月20日	評価結果確定日	平成30年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

リビングからは広い博多湾、キッチンからは志賀島の広い山々が見える、自然豊かな環境に囲まれ、四季の変化を目や肌から感じる事が出来ます。
 日々の生活の中でご利用者様の体調に合わせ、地域行事に参加し地域の方々との交流を深めたり、お弁当を持ってドライブへ出掛け、四季を感じ気分転換をして頂いたりとお一人お一人の気持ちに寄り添った支援を心掛けています。
 施設の敷地内には畑もあり、季節の無農薬野菜を使って食事を作り、ご利用者の皆様には安心して美味しく召し上がって頂き大好評です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	平成30年11月22日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「楽園」は、目の前に広がる博多湾の波の音や潮の香りに包まれた自然豊かな環境の中にあり、デイサービス、有料老人ホーム併設の1ユニット(定員9名)のグループホームである。「介護は『心』利用者にとって頼りになる人になる」を理念に掲げ、管理者、主任を中心に、質の高い職員が一つにまとまり、利用者中心の介護に誠実に取り組んでいる。協力医療機関の往診と看護師、介護職員との連携で、安心の医療体制が整い、終の棲家として看取りも行っている。畑で収穫した野菜を使って、職員が交代で作る食事を皆で一緒に食べる家庭的な食事の在り方、なるべく紙オムツは使わない、自立に向けた排泄の支援、週3回以上の入浴の実施、積極的に行う地域交流、外出の支援によって、利用者の笑顔が増え、その人らしい暮らしが長い入居年数に繋がっている。地域住民に支えられ、地域福祉の拠点として、益々頼りにされている「グループホーム楽園」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回のミーティング時に全職員で始めに理念の唱和を行い共有し、地域との交流も深めている。	理念、「介護は心-利用者にとって頼りになる人になる」を掲げ、理念に基づく3つの基本方針を明示し、毎月行うミーティングの初めに唱和して理念の共有に努めている。職員は、利用者中心の介護をモットーに、家族や地域と連携しながら、その人らしい暮らしの支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間行事として地域行事等に入居者様と一緒に参加させて頂き、交流を深めている。	自治会に加入し、利用者の体調に配慮しながら、地域行事や小学校の運動会、保育所の催しに参加したり、利用者が制作した作品を文化祭に出展する等、地域の一員として交流を深めている。また、各種ボランティアや中学生による獅子頭の慰問、幼稚園児や保育園児との交流等は利用者の楽しみである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を隔月に1回行い、入居者様の状況を報告し、生活状況や支援方法を伝え、認知症の理解を深めて頂けるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に1回運営推進会議を行い、入居者様、ご家族様、地域の方々に参加して頂き、忌憚のない質問・意見を頂き、それをサービス向上に活かしている。	会議は2ヶ月毎に開催し、利用者、家族代表の他、元自治連合会会長、区長、元会計、民生委員等、多くの地域の方の参加を得ている。ホームの運営や取り組み、ヒヤリハット、アクシデント、事故報告を行い、参加委員からは、質問や意見、要望、情報提供等を受け、これらの意見をサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	難しいケースや対応に困った時等、すぐに相談し助言を貰ったり、運営推進会議のお知らせや報告書を送付し連携を図れるよう努めている。	管理者は、利用状況や事故等の報告、疑問点、困難事例についての相談を行政担当窓口に行い、連携を図っている。また、行政主催の研修会や行事に参加し、コミュニケーションを取る中で協力関係を築いている。運営推進会議の案内、議事録を毎回送付している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修の報告や内部研修にて全職員で共有し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	外部研修に参加した職員が内部研修の中で伝達し、職員間で共通理解に努めている。3ヶ月毎に身体拘束廃止委員会を実施し、事例を挙げて検証を行う等、具体的な禁止行為を職員全員が正しく理解し、言葉や薬の抑制も含めた身体拘束をしない介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、内部研修を行い全職員にて周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、内部研修を行い職員全員が知識の向上に努め支援している。	権利擁護の制度に関する資料やパンフレットを用意し、必要時には、利用者や家族に説明し、利用者の権利や財産が不利益を被らないよう、支援している。また、外部研修を受講した職員が内部研修で報告し、職員一人ひとりが制度に関する理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には入念に重要事項と契約書の説明を行い、質問を受け納得をされた上で署名・押印を頂く。 改定などがある時はその都度説明し、署名・押印を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者とのコミュニケーションを密にとり、ニーズを聞いている。ご家族様には来園時、電話、お便り等で意見・要望を頂いている。また、玄関に意見箱を設置し忌憚のない意見を頂くようにしている。	利用者1人に2人の担当職員を決め、管理者、主任、担当職員が利用者、家族とコミュニケーションを取る中で、意見や要望を聴き取り、ホーム運営に反映している。面会の少ない家族とも電話で近況を報告し、「楽園だより」を毎月送付して、利用者の生活状況を伝え、家族の安心に繋げている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とのコミュニケーションを常にとるよう心掛け、個人面談、ミーティング、相談、雑談の中で意見、提案を聞いて話し合うようにしている。	毎月1回、16時から2時間、職員全員が参加して、ミーティングを実施している。話しやすい雰囲気の中で、職員の意見や要望、アイデア等が提案されて話し合い、出来る事から速やかに実行している。管理者は個人面談等で、相談事を聴く機会を密に設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の仕事に対する姿勢や取り組み、スキルアップへの努力、職員同士の協調性などを評価し、給与・賞与などに反映している。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用に関しては特別な理由がない限り障害者の方も雇用している。定年もなく、その人の能力に応じた働き方をしてもらっている。	職員募集は年齢や性別、資格等の制限はなく、働く意欲や人柄を優先し、定年後も体が動く限り働く事が出来る就労環境である。採用後は、知識や介護技術の向上に取り組み、職員の得意分野を活かし、生き生きと働けるよう支援している。また、職員の事情を汲んだ勤務体制に配慮し、チームワークを發揮して働きやすい環境を作り、職員は定着している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員は人権研修会などに参加してもらい入居者に対し人格を尊重し、尊厳を守り穏やかに生活してもらえるよう日々職員同士が注意し合うようにしている。	利用者の人権を守る介護について、外部研修会に職員が交代で参加し、職員は、利用者の尊厳のある暮らしの支援を常に意識して実践している。優しい言葉遣いや笑顔で利用者に寄り添い、ホームの中で利用者一人ひとりが、その人らしく穏やかに過ごせるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとり持ち味が違うのでその人が持っている力量をレベルアップ出来るよう興味のある研修には参加してもらっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に加入し、研修・勉強会等に参加している。運営推進会議においても交流を図るようにしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者に合わせた声掛けや傾聴、介助を行い安心感を得られるような支援を行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	毎月ご家族様へご利用者様のご様子等、お便りを送っている。 面会時にも日頃のご様子をお伝えし、安心して頂けるよう努めている。 何かあれば電話連絡を行っており、定期連絡を密に行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者、ご家族様からニーズを聞き取り、全職員が共有し、支援を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自身のペースで生活できるよう環境を整えコミュニケーションを図り、関係を築いている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様来園時は居室にてゆっくり過ごして頂いている。 また、来園時や毎月のお便り等でご様子等報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	どなたでも来園して頂けるような環境作りや毎月ご家族様へお便りをお送りし、近状報告や体調の変化があれば電話による連絡を行っている。	温かで家庭的な雰囲気の中、面会者も多く、職員はお茶やゆっくり寛げる場所を提供し、利用者と面会者が懐かしい良い時間を過ごせるよう配慮している。利用者の馴染みの場所にドライブで立ち寄り、家族と一緒に墓参りに出かける等、利用者の馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人お一人の性格を把握し、サロン内の座席を決めており、ご利用者同士が関わりを持てるような支援に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様が退去されても季節の折に触れ連絡を取ったり、ご家族の方がいつでも気軽に来園して頂けるような雰囲気作りを心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向に合った暮らし方が出来るよう支援している。 困難な場合はミーティングでご本人の思いや意向について話し合い、ケアを行っている。	入居年数の長い利用者が多く、定着している職員との信頼関係の中、職員は、日常会話の中で利用者の思いや意向を聞き取り職員間で共有し、実現に向けて努力している。重度化の為、意思の疎通が困難になっても職員が寄り添い、利用者の表情や仕草から、思いを汲み取る努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に入居前の生活の事をお聞きしたり主治医や入所前のケアマネージャーに情報を提供してもらい、一人ひとりのこれまでの暮らしの把握が出来るよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりバイタルチェックを行い変化等あれば再計測し、記録に残している。 業務日誌や経過記録を活用した毎日の申し送りや月1回のミーティングで職員全員が把握できるよう努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族様に意向や要望等を聞き、ミーティングで内容を話し合い、介護計画書を作成している。	担当職員が中心に利用者や家族の意向を聴いて、担当者会議の中で話し合い、利用者本位の介護計画を半年毎に作成している。状態変化があった場合は、家族や主治医と相談し、その都度介護計画の見直しを行い、現状に即した介護計画となるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中・夜間帯の様子を経過記録に記入し、必要時には職員連絡帳を活用し職員間で情報を共有している。 又、月1回のミーティングでも記録を元に介護計画の見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ドライブなどの外出のニーズにも対応している。 ボランティアの方々による楽器演奏や日本舞踊等希望があればすぐにお受けし、定期的に行って頂けるように取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の方々の体調に合わせ、できるだけ地域行事に参加し、地域の方々と交流を深められるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、月2回訪問診療を受けられる事を説明し希望に合わせかかりつけ医を決めている。 往診、受診の際は医療連携記録にて情報共有し適切な医療を受けられるよう支援している。	入居前に、利用者、家族の希望を聞いて、主治医を決めてもらい、以前からのかかりつけ医の受診は家族対応でお願いしている。協力医療機関の医師による月2回の往診と看護師、介護職員との連携で、24時間安心の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活での気付き等記録に残し、看護師来訪時に相談し、指示を貰っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。 あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、医療機関やご家族様と情報交換、共有を行っている。 入院中は面会へ行き、顔なじみの関係を保っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、グループホームとしてターミナルケアを実施している事を説明している。 重度のケアが必要な場合は、再度ご家族様と話し合いを行っている。	契約時に、重要事項説明書を基に、重度化や終末期に向けた方針を説明している。利用者、家族の希望があれば、主治医、看護師と連携し、家族の協力、職員間のチームワークで、安心して最期までホームで暮らす事が出来る体制を整えている。これまでに数名の看取りを経験している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修等で応急手当や初期対応の訓練を全職員で行っている。	/	
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。 火災時は地域の方々に協力をお願いしている。 その他の災害時の避難場所はここ楽園となっている。	年2回、避難訓練を実施し、2階の一時避難場所を、火元や状況によって対応出来るように定め、周知している。地震や津波等の災害時の避難場所として、ホームを地域に開放し、地域の訓練にも参加して、協力関係を築いている。また、災害時に備えて、非常食、飲料水を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	便・尿失禁時、早めの対応をし、周りの人に気付かれないように速やかに支援している。 利用者に様々な活動をしてもらう時、無理強いせず意思の尊重をしている。	職員は、理念と基本方針を常に意識し、利用者一人ひとりの人格を尊重して、その人らしく暮らす事が出来るよう、利用者中心の介護サービスに取り組んでいる。特に、排泄や入浴時の介助については、利用者の誇りやプライバシーを損ねない声掛けや対応を心掛けている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の様々な場面で、スタッフの都合ではなく、利用者の自己決定が出来るよう声掛けを行っている。	/	
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の会でどんなことをしたいか聞く。 その日に出来る事は対応する。 無理な時は日を改めて予定に入れられるよう支援している。	/	
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容の声掛けや介助をしている。 お化粧をする人には化粧水・乳液・ファンデーションなど必要な物を切らさないように用意している。	/	
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	だんだんと介護度が重くなり、食事の準備や片付けを一緒に行うのは難しくなってきた。 利用者の好みを聞きながらスタッフ手作りの食事を一緒に頂いている。	畑で採れた新鮮な野菜を使って、職員が交代で作る美味しい食事を職員も同じテーブルと一緒に食べる、家庭的で楽しい食事の時間である。利用者の力に応じて、食器洗い等を手伝ってもらっている。誕生会はちらし寿司やケーキで祝い、利用者大変喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が負担にならない様に量を調整したり、水分は時間を見てスポーツドリンク・お茶・コーヒーなどを摂取して頂く。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員付き添いにて口腔ケア実施。義歯の方は夜間預かり洗浄液に浸けて清潔維持している。週1回歯科の往診を受け、ブラッシングを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作って一人ひとりの排泄の状態を見て排泄誘導している。自立に向け排泄失敗のない方は布パンツにて支援をしている。	「なるべく紙オムツは使わない」の思いの下、職員の熱意と利用者の頑張りで、排泄の自立に向けて取り組み、2名の方がリハビリパンツから布パンツに改善している。利用者一人ひとりの習慣や間隔を把握し、細やかな対応で夜間帯も紙オムツを使わないケアに取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方は牛乳などを飲んで頂き、医師に相談し排便を促す薬などで対応している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の排便状態をはかり、必ず週3回は入浴できる様に支援している。足浴が必要な方は毎日施行する。	入浴は利用者の希望や体調に配慮しながら行っているが、必ず3日以上は入れるよう取り組んでいる。家庭的な浴槽に一人ずつゆっくりと入浴を楽しめるよう支援し、清潔保持だけではなく、健康チェックや職員との1対1のコミュニケーションを大切にしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の状況や希望に応じて居室で休んでもらっている。室内温度、危険防止などに配慮し安心して休んでもらえるよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の一覧は職員がいつでも確認することが出来る。服薬後の変化や変更は訪問医との連携を通して毎日の申し送りやミーティングなどで全員周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのお祝い事を皆さんで喜び合ったり、思考を変えた食事会をし、楽しまれている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事への参加、四季を感じて頂くようドライブ等、楽しく安心して外出が出来るよう支援している。	志賀島の自然を満喫できる環境の中で、利用者と職員と一緒に散歩やドライブ等を楽しみ、重度化している中でも積極的に外に出かけ、季節を感じて貰えるよう支援に取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出先での食事やおやつ等一人ひとりに応じた支援をしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様から電話等がありましたらご本人様の日頃の様子や体調などを話し、電話をご本人様の耳元に持参し声やお話しするのを支援している。又、月1回の楽園だよりはご本人様の名前や季節のカットに色を塗ったり付け加えたり楽しいお便りにするよう支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出すための壁飾りを利用者と作り、朝の会の時は日付の確認や季節の歌を唄ったり、子供の頃の季節の遊び等を思い出してもらい、手遊びやハーモニカを吹く事が出来る利用者と共に合唱して頂いたりしている。	目の前に博多湾が広がるリビングからの眺めが素晴らしい、明るく開放的な共用空間である。季節の生花があちこちに飾られ、利用者の笑顔の写真をたくさん飾り、季節感を大切にした温かな雰囲気的生活環境である。ソファーに並べられた人形や小物等、代表や職員の気持ちが隅々まで行き届いた居心地の良い共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	毎日過ごして頂く場所の確保や、安楽に座れて会話を楽しんでもらう座席作りを工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になじみの家具や希望であれば仏壇を持参されたり、寝具はご自宅のご本人様の布団等を使用している。	入居前に利用者や家族と話し合い、利用者の馴染みの家具や寝具、大切な物を家族の協力で持ち込んでもらっている。壁には、写真や誕生日に贈られたお祝いの色紙、利用者の作品等が飾られ、利用者が安心して穏やかに暮らせる、明るくて清潔な居心地の良い居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様が使い易いトイレを使用したり、入浴時に握り易いバーを持って頂き安心・安寧に、出来るだけ自立した生活をして頂けるよう工夫している。		